

基本計画 第3章

分野別施策

分野1 子ども・子育て、教育

分野2 健康、福祉

分野3 共生、文化芸術、スポーツ

分野4 安心・安全、都市基盤、交通

分野5 産業、雇用、環境

分野別施策では、まず目指す姿を想定し、現状を把握します。その上で、目指す姿に到達するための課題を整理し、その課題を解決する取組方針をまとめています。

また、国が示した地方創生 SDGs ローカル指標リストを参考にした成果指標を、一部設定しています。このような成果指標は、SDGs が必達目標でないことを踏まえ、目標値ではなく目指すべき方向性（矢印を使った定性的な目標）を設定しています。

これらの成果指標は、目標値にとらわれず、値が変動した要因・分析に焦点を当て、データや証拠に基づいて、施策の効果を高めるための幅広い議論、検討をしていきます。

子育てにやさしいまちづくりを推進する

➤ 目指す姿

- 遊びや会話など、家族で楽しい時間を過ごしている親子に温かい眼差しが注がれ、子どもたちの笑顔を中心に周りの人々に幸せな気持ちが広がっています。

➤ 現 状

- 地域のつながりが希薄となる中で、孤立感や不安感を抱える妊婦や子育て世帯が増加傾向にあります。
- 子どもの抱える課題が多様化するとともに、医療的ケア児^{※1}、障がい児、発達に課題のある子どもについての相談が増加傾向にあります。
- 女性の就労率の向上や核家族化などにより、保育需要が高まっています。
- ひらつかネウボラールームはぐくみをはじめとした相談支援や子育て支援施設が充実するとともに、子育て世代の心理的・経済的不安を軽減する支援制度が揃っています。

※1 日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、痰の吸引その他の医療行為を受けることが不可欠である児童のこと。

➤ 課 題

- 子どもの視点に立った支援を強化する必要があります。
- 安心して産み育てられる環境の整備、医療体制が必要です。
- 子育てと仕事を両立し、多様なニーズを踏まえた安全な幼児教育・保育環境の整備が必要です。
- 将来の人口減少を見据えた保育士の確保が必要です。



重点戦略Ⅰ

重点戦略Ⅱ

重点戦略Ⅲ

重点戦略Ⅳ

分野Ⅰ

分野Ⅱ

分野Ⅲ

分野Ⅳ

分野Ⅴ

取組方針

- 妊娠・出産・子育てにおける不安を解消し、切れ目のない支援を行います。
- 様々な課題を抱える世帯やヤングケアラー※¹などの子どもを支援します。
- 小児・周産期の救急診療、医療提供体制を維持します。
- 少子化の進行と多様なニーズを踏まえた保育所等の整備や保育士確保をより進めるとともに、保育の質を高めます。
- 放課後児童クラブの整備を進めます。
- 保育所等における保護者や保育士の負担軽減と安全対策を強化します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

◇子育て情報にアクセスしやすい環境整備・充実

◇子育て関連施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

※¹ 家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものこと。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
子育てに関する相談件数★ ¹	—	5,300件	5,500件
保育所等申込者に対する受入可能人数の割合	97.0%	100%	100%

★¹ こども家庭センター・こども発達支援室くれよんにおける相談件数のこと。

子どもの学びを充実する

➤ 目指す姿

- 学校で学んだことが、明日、そして将来につながっています。児童・生徒一人一人が、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動しており、それぞれに思い描く幸せの実現に向けて希望を持っています。そして、社会に出たとき、明るい未来の創り手となっています。

➤ 現 状

- 確かな学力^{※1}を育成しています。
- 豊かな心^{※2}と健やかな体を育成しています。
- 1人1台のタブレット端末や高速大容量の通信ネットワーク環境が整っています。
- 地域とともにある学校づくりが求められています。

※1 知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性などのこと。

※2 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりの心などのこと。

➤ 課 題

- 主体的・対話的で深い学びを実現する必要があります。
- 自己肯定感や思いやりの心を育む必要があります。
- 基本的な生活習慣や運動習慣を確立する必要があります。
- これまで実践してきた教育活動とICT^{※1}を活用した教育活動のベストミックスを図る必要があります。
- 学校運営に地域の人的・物的資源を活用する必要があります。

※1 インターネットなどを活用してコミュニケーションができる情報通信技術のこと。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野Ⅰ

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善につながる、個別最適で協働的な学びを充実します。
- 道徳教育や人権教育及び体験活動を充実します。
- 体育・健康に関する指導を充実します。
- 教員のICT活用指導力を高めます。
- 学校教育や学校運営において、地域との連携を強化します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ◇タブレット端末を活用した授業の推進に向けた教員向けのICT活用研修会の実施
- ◇環境教育の充実

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
授業（国語、算数・数学）の内容がよく分かると回答した児童・生徒の割合（小・中学校）	小学校 81.5% 中学校 78.8%	小学校 82.5% 中学校 80.0%	小学校 83.5% 中学校 81.0%
自分には良いところがあると回答した児童・生徒の割合（小・中学校）	小学校 77.6% 中学校 76.0%	小学校 81.0% 中学校 78.5%	小学校 84.0% 中学校 81.0%

教育環境を充実する

➤ 目指す姿

- 全ての学校で、事故を未然に防いでおり、安全な施設の中で子どもたちが学校生活を過ごしています。また、一人一人の興味や関心、課題に応じた指導や支援の中で、子どもたちが自らの可能性を感じ、未来へ向かって歩んでいます。

➤ 現 状

- 子どもの抱える困難さや教育的ニーズが多様化・複雑化しています。
- 学校施設や各種設備が老朽化しています。
- 学校を取り巻く社会情勢や環境の変化により、子どもたちを取り巻く環境も変化しています。
- 県立特別支援学校の助言を児童・生徒への適切な支援につなげ、暮らし慣れた地域の学校で学んでいます。

➤ 課 題

- 子どもたちの健やかな成長を支える必要があります。
- 悩みや課題を抱える子どもに寄り添い、教育機会を確保する必要があります。
- 学校施設の適切な管理と教職員の安全管理意識の向上が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 持続可能で効率的な給食運営を実現します。
- インクルーシブ教育^{※1}を推進するとともに、相談・支援体制をさらに強化します。
- 経済的な理由により、修学が困難な家庭を支援します。
- 学校施設や各種設備の計画的な整備を進めます。
- 学校事故や災害等を想定した危機管理演習を実施します。
- 通学路の環境整備をはじめ、学校安全対策を推進します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

◇ICT^{※2}を活用した給食情報の配信

◇学校施設等における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

※1 共生社会の実現に向け、全ての子どもが、できるだけ同じ場で共に学び共に育つことを目指す教育のこと。

※2 インターネットなどを活用してコミュニケーションができる情報通信技術のこと。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
小・中学校のトイレの洋式化率	60.3%	83.8%	89.7% ^{★1}
学校に行くのは楽しいと回答した 児童・生徒の割合（小・中学校）	小学校 84.1% 中学校 84.3%	小学校 88.0% 中学校 85.0%	小学校 89.0% 中学校 86.0%

★1 学校トイレ洋式化計画は2029年度までの計画となっています。

若者支援、青少年健全育成を推進する

➤ 目指す姿

- 青少年が自分自身に自信を持ち、社会性やリーダーシップを育む中で、大切な思い出を作っています。また、次世代の社会の担い手としての活躍が期待されています。

➤ 現 状

- 青少年の抱える課題が多様化・複雑化しています。
- ジュニア・リーダースクラブ^{※1}の会員数が減少しているほか、地区での活動が縮小しています。
- 県内他市と比べて、多くの青少年指導員が活動しています。
- 孤立し、ひきこもり状態になっている一部の青少年がいます。
- 若い世代において、家事も通学もしていない無業者がいます。
- 就業間もない奨学金制度を活用した若者の経済的負担が大きくなっています。

※1 中学生から高校生までを対象として、余暇を利用して自己を鍛え、仲間づくりを図り、青少年関係団体活動への協力と地域社会への参加を通して、明るいまちづくりに役立つことを目的に設立された団体のこと。

➤ 課 題

- 青少年の抱える課題に対処する必要があります。
- 地域をけん引する青少年を育てる必要があります。
- 青少年指導員を中心とした新たな意欲のある人材が必要です。
- ひきこもり状態にある青少年の孤立を解消する必要があります。
- 青少年活動の拠点であるびわ青少年の家を利活用する必要があります。
- 社会的自立や経済的負担軽減に向けた支援が必要です。



重点戦略Ⅰ

重点戦略Ⅱ

重点戦略Ⅲ

重点戦略Ⅳ

分野Ⅰ

分野Ⅱ

分野Ⅲ

分野Ⅳ

分野Ⅴ

取組方針

- 青少年の非行化防止の活動を充実するとともに、相談体制の質的向上を図ります。
- ジュニア・リーダーズクラブの魅力を発信するとともに、広域連携した研修等を充実します。
- 青少年指導員の活動等について、効果的に情報を発信し、加入を促進します。
- ひきこもりの支援団体等と連携し、社会参加のきっかけづくりを推進します。
- びわ青少年の家の利用対象を広げ、幅広い用途で活用します。
- 経済的安定や学びの機会の確保を支援します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ◇ デジタル技術を活用した青少年交流の促進
- ◇ 青少年に対する環境意識の啓発

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
愛護指導★ ¹ 件数	817件	1,130件	970件
ジュニア・リーダーズクラブの 派遣回数★ ²	7回	15回	18回

★1 青少年の問題行動の早期発見・早期指導、非行化防止のための声掛けや見回り活動のこと。

★2 地域団体等への派遣回数のこと。